主体的に思考・判断・表現する生徒の育成

~主体的・対話的な学習につながる評価活動の研究を通して~

(2年計画の2年次)

校長 伊崎 己治

1 研究主題について

新学習指導要領完全実施により、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が求められるなか、本校では、昨年度、「主体的に思考・判断・表現する生徒の育成」をテーマに2年間の研究をスタートさせた。昨年度は、対話を通して問いをもち、考えを深め合う学習活動の在り方を模索した。話合いの中から得た気づきを基に思考・判断・表現する学習活動については、一定の成果が得られた。

だが、「生徒自身が課題を見出すしかけの工夫」、「学習用端末の活用のしかた」、「指導と評価の一体化」等に関する有効な手法について、一層の共通理解を図り、教員間で共有できる体制を整えることなどが課題として残った。

今年度は、昨年度の研究を踏まえて、「学習目標に対する評価をどう設定していくか。生徒の主体的に学習に取り組む態度をどう評価していくか。また、評価の結果をどう分析していくか。さらに、次段階の学習課題の与え方や学習活動の設定にどう反映させていくか。」といった点に主眼をおいて、「指導と評価の一体化」について研究を推進した。

2 研究のねらい

学習評価、評価結果の分析、それを前提とした学習活動を効果的に連携・循環させて、生徒の学習 改善、教師の指導改善を図る。

3 研究仮説

学習指導において、目標の達成の度合いを知るための評価を適切に行う。その結果を踏まえて、生 徒が自ら問いをもち、他との対話を通して課題を追求する態度を育成するための指導を工夫する。こ れらを積み重ねることによって生徒の「主体的に思考・判断・表現する力」を高めることができる。

4 研究内容

- (1) 年間指導計画における長期的な指導と評価の一体化の工夫。
- (2) 1単位時間の授業、単元指導計画等における短期的な指導と評価の一体化の工夫。
- (3) 生徒が問いをもつしかけの工夫。
- (4) 「主体的な思考・判断・表現につながる発問・活動指示・教材提示・課題提示」の工夫
- (5) 「課題に気づいたり、共有した課題を解決したりするための話合い活動」の設定の工夫。
- (6) 「相手を尊重して話し合う態度」、「根拠を明確にした意見の述べ方」等についての共通理解と共 通指導、継続的な指導のための学区内小学校との連携
- (7) 特別支援教育の視点を踏まえたユニバーサルデザインに基づく授業づくり
- (8) ICTを活用した思考力、発信力、自己表現力の育成

5 研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	授業研究 (内容)
6	1	・校内研修研究授業 (1年国語:要請訪問)
8	2 9	・教育指導課・総合教育センター計画訪問参観授業(教科・領域)
9	上旬	・授業相互参観週間(教科・領域部会)
1 1	初旬	・中堅研前期授業研究 授業者:菰田聖一(理科)

(2) 一般研修

月	日	一般研修(内容)	
4	2	校内研修計画についての共通理解 (研修主任より)	
4	2 1	Chromebook の活用法について (視聴覚担当:木村公昭 教諭)	
5	1 8	「指導と評価の一体化」について(研修主任より)	
6	1	「指導と評価の一体化」について (総合教育センター主任指導主事中村美穂先生)	
8	中旬	次年度市中教研授業研究発表に向けての準備(国・数・美・特支)	
3	上旬	次年度の校内研修について	

6 研究の成果

「主体的・対話的な学習につながる評価活動」の実践的研究の導入として研修主任が研究授業 (1年国語)を行い、市総合教育センター主任指導主事中村美穂先生より指導助言をいただいた。その中で「指導と評価の一体化」についてお話をいただき、「どの資質能力を、どこで評価するのか明確にすること」、「1人1台端末を対比・比較・検討に用いることや協同作業に活用すること」、「問題解決学習にしていくしかけの工夫の必要性」等について認識を深めることができた。それをもとにした日々の研究の集約の場を、教育指導課・総合教育センター計画訪問に設定し、評価を工夫し主体的・対話的な学習の実践を図った授業を展開することができた。

授業における ICT 機器の使用について、授業者がプレゼンテーションソフトを使用して学習活動を進めたり、映像資料を提示したり、生徒同士が意見交換や意見集約に活用したりするなど、その使用が普遍化されてきている。それによって、授業の充実が図られたと言える。

7 研究の課題

- (1) 前段階の評価結果を分析し、次段階の課題を見つけさせる働きかけを工夫することのさらなる 追究。
- (2) 生徒の自己評価や相互評価から課題点を見出させ、その解決を図る探究に取り組ませる工夫。
- (3) ICT 機器を用いた学習活動の結果を、指導者の学習評価、生徒の自己評価および相互評価に活用する工夫。
- (4) 教科部会・領域部会の研究活動時間の確保。また、教科部会・領域部会における単元または指導 内容ごとの研究主題に合致した指導の基本形の模索・共有・蓄積、実際の学習指導への反映。

これらの課題解決に向けて、職員一丸となった取り組みを促進していきたい。

(記入者:四戸壮一郎)